

法人化と堅実な営農で集落の信頼を集め、後継者の将来の役割を共有
・規模拡大する営農組織 ～有限会社 泉八（岐阜県神戸町）～

経営体の概要

設立時：平成18年	➔	現在：平成30年
基幹作物：水稻（主食用米） 小麦、野菜		基幹作物：水稻（主食用米、飼料用米）、小麦、大豆、 キャベツ（加工・業務用）、蜜源れんげ
経営面積：11.9ha		経営面積：51.8ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成18年に農家4戸で有限会社を設立し、水稻、小麦、野菜の作付けを開始した。その後、集落からの信頼を得て国営事業により用水が供給されている農地を年々集積し、規模拡大を実現している。

平成19年から特別栽培米、平成22年から飼料用米、平成24年から大豆、平成28年から加工・業務用キャベツの生産に取り組むなど、経営安定を図っている。

3名の地元若手後継者を育成しており、将来を見据えた経営を行っている。

営農改善のポイント

①単収・品質の向上に繋がる取組

れんげハツシモ（特別栽培米）の栽培では、れんげの生育期間の確保や霜害回避のため9月下旬までの播種、開花直後の適期すき込みに務めている。その他水稻作では土壌改良剤を導入し、単収・品質の向上に努めている。

転作作物（小麦、大豆、キャベツ等）の栽培では、額縁明渠による排水性の確保を徹底し、収量安定を図っている。



泉八の皆さま

②省力化・低コスト化の取組

水稻作において、密播育苗による育苗箱数の節減、全量基肥施用による施肥量及び施肥回数節減により、省力化・低コスト化に取り組んでいる。また、多様な品種を導入し、作期分散を図っている。

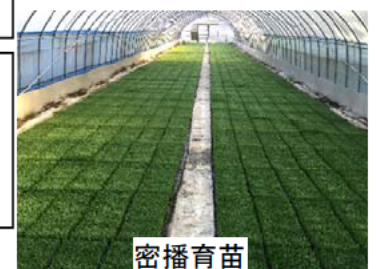
ほ場整備時期が早く（昭和30年代）小区画のため、自社で畦畔除去し、機械作業の効率化を図っている。



キャベツ

③規模拡大

農地中間管理機構を介し、経営規模は年々拡大しており、八条及び和泉地区では8～9割の集積率となっている。この他、隣接する加納、中沢地区の農地の集積も進みつつある。



密播育苗

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
 関係市町：大垣市、養老町、垂井町、神戸町、
 揖斐川町、大野町、池田町
 受益面積：5,342ha
 事業期間：平成21年～平成26年
 事業目的：用水改良
 主要工事：頭首工改修1箇所、用水路改修L=4.0km、
 水管理施設改修

位置図（岐阜県）



<問い合わせ先>

東海農政局
 農村振興部農地整備課
 課長補佐（競争力強化事業推進）
 電話：052-223-4638

（平成30年度調査時点）